

## 空 海

1. 平安時代、讃岐国多度郷(現在の香川県善通寺)にて出生。
2. 14歳で叔父である阿刀宿祢大足に師事し、17歳で平城京の大学寮へ入る
3. 18歳で大学寮を中退し、仏教・道教を学ぶ為に私度僧として西日本各地を行脚。
4. 20歳の年、槇尾山寺(現在の施福寺)で・・・もしくは25歳以後、東大寺戒壇院にて出家得度し、空海を名乗っていた。(大和大安寺にて出家説もあり)
5. 804年、留学僧として遣唐使となり、長安へ渡る。  
同じくして留学生として橘逸勢、還学僧として最澄が乗船。
6. 真言宗総本山にて恵果和尚に師事し、約1年をかけて経典等を学ぶ。  
806年初頭からは薬学・土木建築学・海洋学等を学ぶ。
7. 806年半ば、唐の遣唐使判官に上奏し帰国。
8. 短期での帰国に朝廷からの上京の許可がおりず、大宰府を拠点に九州での布教活動を行う。
9. 809年、嵯峨天皇の即位を機に、一時弟子入りした最澄らの支援を受け上京。  
(816年に最澄と訣別)

10. 810年に勃発した「葉子の変」による鎮護国家の修法を機に嵯峨天皇との交流が始まる。

11. 816年、高野山を拠点に真言宗の布教を勅許。

別当(工事責任者)として満濃池など、各地の土木工事にも着手

東寺を下賜され、京での布教が始まる

種智院大学を開創し、庶民に対する教学を行う

12. 835年逝去

13. 921年、醍醐天皇より「弘法大師」の号を賜る。

## 遍 路

### <古期>

1. 平安時代中期頃には四国辺地(しこくへじ)と呼ばれ、修行僧や行者などが行っていたとされる修行だったが、鎌倉時代以降より空海を信仰する人々がその足跡を辿る目的に変化したとされる。
2. 室町時代からは西国三十三所巡礼の煽りを受け、一部の公家や武家の人々により一般化していったと考えられる。
3. 室町時代後期頃より、四国内での勢力争いが激化し、戦国時代には長宗我部元親による天正の兵火等で衰退する。
4. 江戸時代初期に、高野聖の寂本による「四国偏礼霊場記」や、有辯真念による「四国偏路道指南」などが発刊され、大衆化を始める。

### <中期>

1. 真念著「四国遍路道指南」に書かれる88の社寺を巡るモデルコースが確立され遍路＝四国八十八カ所が定着する。
2. 江戸時代半ばから、今治市出身の武田徳右衛門、山口県周防大島出身の中務茂兵衛らにより、遍路道としてのコースルートが定着。
3. 江戸時代中期から幕末にかけ、奇病難病が原因で里を追われり、口減らしの為に自ら訪れた人々をも「お遍路さん」として迎え入れた。  
ただ、追剥や騙し・物乞いなど「職業遍路」と呼ばれる人もいた。

4. 維新の志士による「廃仏毀釈運動」鎮静化を図るため、「神仏判然(分離)令」が太政官布告により発足したため、88ヶ所が仏教のみに統一。
5. 幕末以降、国民に旅行観念が芽生え始めたことにより、旅行と巡礼が結び付けられることも多くなってきた。
6. 明治の終わり頃には技術の発展により、公共交通機関や車での参拝が増え始めた。
7. 昭和4年に高野山鉄道が全線開通、南海鉄道との直通運転が可能となった。
8. 昭和14年、高野山にて四国八十八カ所のご本尊「出開帳」が行われ、大衆に知れ渡るが、17年に始まった本土攻撃により一時停滞を余儀なくされる。

<近代>

1. 昭和28年、伊予鉄道による貸し切り「バス遍路」が出発。
2. 遍路のスタイルに齟齬が生じることを防ぐために、モデルスタイルを衛門三郎を模した、「白装束」「菅笠」「混合杖」を霊場会を筆頭に推し進める。
3. 明治以降に廃寺となっていた寺院が、戦後の復興と共に再興するという事例があり、番号が一致していない札所があったが、平成元年88ヶ所と札所確定。また、宮崎建樹氏率いる「歩き遍路保存協力会」が主となり、旧遍路道を整備しながらも新たに遍路地図を製作。
4. 平成10年前後から衛門三郎に習い、閏年の「逆打ち」ブームが始まる。

## 参拝

<準備>

◎輪袈裟(半袈裟)・・・教派宗門は問わず

◎各種お供え物

◎数珠・・・教派宗門は問わず

◎納経用品

◎経本

○白衣(道中着)

△菅笠

△混合杖

<参拝手順>

1. 門もしくは境内の境界にてご本尊に向かい一礼

2. 手水(てみず・ちょうず)舎にて手口を清める  
※左手→右手→口の順番

3. 本堂のお供え、参拝(読経)

(1)お供え

◎賽銭(浄財)

◎納札

○線香

○ろうそく(灯明)

△写経

4. 大師堂のお供え、参拝(読経)

同上

5. 退出時、振り返って一礼

<1> 朱印・納経

社寺仏閣にて参拝した証に頂く。寺院にて経を納めた印に頂くのが納経。

<2> 打つ

- ・順打ち……1～88番まで順に回る事
- ・逆打ち……88～1番へ逆に回る事(おもに閏年)
- ・通し打ち……88ヶ所を一度に回りきる事
- ・区切打ち… 何回かに分けて回る事

<3> 読経・祝詞

・読経……寺院にて唱える。八十八カ所に於いては真言宗を主とする

- ①開経偈
- ②懺悔門
- ③三帰・三境・十善戒×3回
- ④発菩提心真言×3回
- ⑤三摩耶戒真言×3回
- ⑥般若心経
- ⑦御真言×3回
- ⑧光明真言×3回
- ⑨御宝号×3回
- ⑩回向文
- ⑪祈願文

・祝詞……神社にて主に唱える

- ①禊祓詞
- ②大祓詞
- ③三種の祓

<4> 巡礼・巡拝

決められたコースや順序を通して参拝・礼拝すること

- ・西国三十三所観音霊場
- ・廻国六十六部
- ・サンティアゴ・デ・コンポステーラ



<道標>



真念道標



茂兵衛道標

